

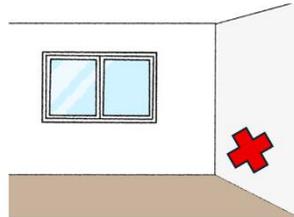
## 異物混入対策～食品工場でのメンテナンス～

食品工場において、異物混入は、大きなクレームに直結するため、それを防止するためのメンテナンスは非常に重要な業務となっています。では、食品工場でのメンテナンスはどのように行われているのでしょうか。

### 1. 仮補修と本補修

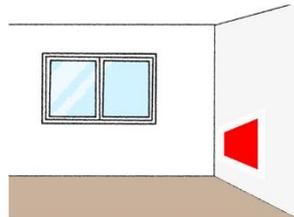
仮補修：別の表現をすると「修正」で、あくまでも恒久処置までの繋ぎとなります。

例：壁に穴が開いたのでテープで補修した。



本補修：別の表現をすると「是正」で、恒久的な対策となります。

例：壁の穴を石膏ボードとコーキングで補修した。



### 2. 使用してよい部材、使用すべきではない部材

使用してよい部材：食品接触面に使用する場合、食品との接触が認められた素材とする。

例：食品用器具・容器包装のポジティブリスト制度に準ずるもの。

[食品用器具・容器包装のポジティブリスト制度について \(2025年5月31日まで\) | 厚生労働省](#)

使用すべきでない部材：恒久的な修理のためにテープ、ワイヤー、ひも、ダンボール、ビニール素材や他の一時的な素材を使わない。緊急時（仮補修）にこれらの素材を使用する場合、修理部材に期日を記入し、管理し、速やかに恒久的な補修を行う。

例：スズラテープ、PPバンド、布テープなどの劣化しやすい部材。



### 3. ガラス、脆いプラスチック、セラミック

破損した場合、その破片の回収が容易ではなく、破片を喫食した場合、人への危害が発生する可能性が高いものが、ガラス、脆いプラスチック、セラミックとなります。このため、これらについては割れないようにする、割れても破片が出にくい素

材を選定する。もしくは割れたことにすぐに気が付けるような点検を実施する。割れた破片はしっかりと回収して、系外に排除することなどを管理項目として規定する。

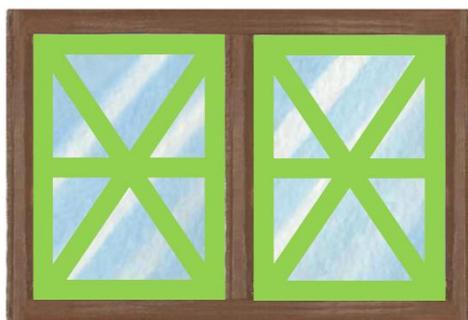
例：照明 飛散防止タイプの蛍光灯(○○○○・P、○○○○ボウなど記載されている)

LED 蛍光灯

安全カバー ポリカーボネート、PET 樹脂などを選定する。

割れた箇所をマジックでマーキングして、割れの進行をモニタリングする。

窓ガラス 台風などの対策として、飛散防止フィルムや養生テープを貼る。



#### 4. 潤滑剤

食品製造設備、包装設備、および偶発的な食品汚染の可能性のある設備には、食品グレードの潤滑剤を使用する。潤滑剤には表示を施し、それらを指定された安全な場所に、隔離し、保管する。また、食品グレードと非食品グレードの潤滑剤をそれぞれ分離して保管する。

設備の過剰な潤滑剤や油汚れを取除く。

食品グレードの潤滑剤とは：米国の公衆衛生や環境保護に関する規格の作成や製品評価・認証を実施している第三者機関「NSF（National Sanitation Foundation International）」が認定した規格で以下のようなものがある。

H1 グレード：食品に偶発的に接触する可能性がある箇所に使用可能

H2 グレード：周囲に食品が置かれていない場所、接触しない場所で使用可能

H3 グレード：食肉を吊すフックやレールの防錆に使用されるもの

3H グレード：フライパンなど、直接食品に接触する目的で使用されるもの

\* 日本では食品グレードを定義する法規や規格はない。しかしながら、FSSC22000 などの食品安全規格は欧米の規格であり、NSF 認証が推奨されている。このため、多くの食品会社では、この認証で定義された食品グレードの潤滑剤が使用されている。

